

## 火山の絵葉書、下敷きなどを作成

近年火山に関する書籍類は大量に出版されているが、それらは主に研究者が対象であり、一般向けではない。1997年には、3件の火山ガス事故により、9人が死亡した。この原因の一つとして、火山の危険性の認識が欠けていた点が挙げられ、普及啓発活動の重要性を改めて認識させた。そのため地質調査所では、地質情報の普及活動の一環として、火山について、小中学生にも理解してもらえるような各種印刷物を作成した。ここでは、日常生活の中でも火山を意識してもらう意図で作成した下敷き、絵葉書について紹介する。写真はすべて所員が撮影したもので、現物にはここに示したような簡単な説明がついてある。これらの印刷物は地質調査所研究資料集No.323として登録されている。

＜地質調査所 環境地質部 須藤 茂＞

### ○火山の下敷き（B5版）

表に日本の火山の分布（口絵1）、裏に活動のタイプの異なる4つの代表的火山（口絵2-5）を示した。口絵2は、絵葉書セットのカバーにも使用した。口絵3は、子供達の人気が高かった。今の子供達にとっては、1986年の伊豆大島噴火は直接の記憶にはないので、初めて見る写真なのであろう。雲仙の噴火もそうなる日が近づいている。

### ○火山の絵葉書

日本の火山の分布図1枚と写真11枚をケースに入れた。口絵3-8に示した写真に、鳥海山、伊豆大島の地層大切断面、三宅島、焼岳、米塚を加えてある。



1. 日本には、第四紀（約170万年前から現在までの時代）にできた火山が270以上もあり、そのうち最近の2000年間に噴火記録があるかまたは噴火活動が活発な火山は80以上ある。



2. 富士山、山頂の左（南東）に見える大きな凹みは1707年の噴火で有名な宝永火口である、このほかにも、山体の北西と南東には沢山の側火山がある。



3. 伊豆大島火山、1986年11月の三原山の噴火。



4. 阿蘇カルデラ、東西17km、南北25kmのカルデラの中には十数個の中央火口丘がある。



5. 雲仙岳、1991-95年の噴火では、山頂部に、体積1億立方メートルの新たな溶岩円頂丘ができた。



6. 昭和新山、北海道、洞爺湖の南で1944-45年に噴火が起こり、比高約300mの新山ができた。



7. 安達太良山、福島県にある成層火山、山頂には、直径約1.5kmの沼ノ平火口がある。



8. 秋田駒ヶ岳、秋田・岩手県境にある成層火山、山頂のカルデラ内の女岳で1970年に噴火が起きた。

参考文献

須藤 茂・中野 俊・山元孝広・  
阪口圭一・高田 亮・斉藤英二・  
伊藤順一・川辺道久・松島喜雄  
(1998): 火山研究成果普及用各種  
資料作成、地質調査所研究資料集  
no.323、地質調査所。

問い合わせ先

〒305-8567

茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 業務課 広報係

Tel. 0298-54-3520

Fax.0298-54-3504